

平成28年度 事業計画書

自 平成28年7月 1日

至 平成29年6月30日

1 九州算数・数学教育研究大会の開催

福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県合同の研究大会を年1回開催する。

各県においてなされた優れた研究・実践を他県に広げ、教員の指導力向上に取り組む。

研究大会会場は、本年度は、大分県を予定している。

また、小学校、中学校、高等学校それぞれにおいて、教員の授業力向上に寄与できる公開授業及び研究協議を実践する。

研究大会開催地の文化に触れてもらう予定である。

2 大学・高校入試連絡会の開催

各大学代表者と数学教育関係者による研究会を年1回開催する。

大学教員が入試問題の出題意図の説明と採点結果の講評を行い、高校側への要望等を伝えて、質疑を行うことによって、高校側の教科指導力向上を図ることを目的とする。

参加大学は、入試問題として数学を選択する受験生が多い、九州・山口地区の10国立大学、1公立大学、1私立大学で、鹿児島大学、宮崎大学、熊本大学、大分大学、長崎大学、九州工業大学、佐賀大学、福岡教育大学、九州大学、山口大学、北九州市立大学、福岡大学とする。

3 研修会の実施

(1) 算数・数学教育研修会の実施

年6回は福岡県、1回は大分県で研修を行う。

大学教員による、算数・数学教育に関する講義、小学校、中学校、高等学校教員による研究発表を行う予定である。多くの教員の興味・関心に応えられるように、様々なテーマを取り上げる。

研究発表については以下の内容が主なものである。

(ア) 授業改善の研究発表

小学校、中学校、高等学校の教員を中心に算数・数学のつながりや授業の改善を行う上での各校種、各学校が抱える課題を発表し、協議を行う。

教員が小学校、中学校、高等学校、大学という校種間の違いを明確に認識

し、算数と数学のつながりや他学年とのつながりを正しく理解することでより質の高い授業作りができるようにする。

(イ) 大学入試問題の研究と分析

福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の高等学校の教員を中心に大学入試センター試験、私立大学では福岡大学（推薦入試及び一般入試）、国公立大学の個別学力検査（いわゆる「2次試験」）では九州大学、佐賀大学、熊本大学、長崎大学、鹿児島大学、九州工業大学において出題された問題を分析し、出題の傾向や指導のポイント等を共有する。また、そのことを踏まえた授業のあり方等の協議、より良い指導方法に関する意見交換を行う。

(2) 数学オリンピック研修会の実施

年8回、高校生に数学オリンピックの問題を学習する機会を設ける。

福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の高校生・教職員に通知し、福岡県において開催する。主に日本数学オリンピック一次予選の問題から1回につき、10題程度を指定し、希望者は事前に自主的に学習し、当日、解答を発表し合う。高校生の数学に対する関心を高め、教職員の研修も兼ね、数学教育の発展に寄与する。

4 会誌「情報」の発行

九州数学教育会会誌「情報」の発行を行う。

掲載内容は個人・研究グループからの研究投稿、研究大会の実施報告、次期研究大会の開催案内の3つとする。

数学教育の現状理解と今後のあり方を検討するための資料の保管と閲覧による情報提供を行う。

5 「類比方式による数学1・A問題集」の発行

青少年の数学学習環境を整えるための問題集の編集、出版を通じた研究開発を行う。

青少年の数学教育向上のための調査研究を行う。

教育課程の研究を進める。

美術に興味を持つ生徒に、数学を題材にして、本会が発行している「類比方式による数学1・A問題集」の表紙絵を描いてもらう。

視覚に障害のある生徒に、本数学教育会編の問題集の問題を無償で提供する。